

ソーシャルワーク応用実習指導

[講義・演習] 第4学年 前期 選択 1単位

《履修上の留意事項》4年次に開講されるソーシャルワーク応用実習及びソーシャルワーク応用実習指導を履修予定の学生は必ず履修すること。
4年次にソーシャルワーク実習及びソーシャルワーク実習指導を履修する学生の履修は実習日程等の点から困難となるため留意すること。

《担当者名》◎近藤 尚也 n-kondo@hoku-iryo-u.ac.jp ○巻 康弘 福岡 麻紀 宮本 雅央 片山 寛信 (主担当◎、副担当○)

【概要】

4年次に実施されるソーシャルワーク応用実習に対する実習指導教育の科目である。さらに、ソーシャルワーク応用実習は実践と研究の視点を深めながら社会福祉実践の統合化を図ることを特色とする。従って、この科目を選択する学生は、「現場体験を深める」等の自らの自主的な学習目的と課題をもって実習に臨む必要がある。

【学修目標】

- ①実習分野の特性を説明することができる
- ②自らが設定した実践的課題に関する振り返りができる
- ③自らが設定した研究的課題について深めることができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	・ソーシャルワーク応用実習の概要が説明できる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
2	実習施設機関の検討	・実習先の検討ができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
3	自己理解	・ソーシャルワーク実習を振り返り、自らの課題を説明できる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
4	ソーシャルワークの視点の整理	・ミクロ・メゾ・マクロの視点でソーシャルワークの課題を考えることができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
5	実習課題の具体化1	・実習課題を具体化することができる ・実習課題に関わる事前知識・技術を習得することができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
6	実習課題の具体化2	・実習課題を具体化することができる ・実習課題に関わる事前知識・技術を習得することができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
7	実習課題の具体化3	・実習課題を具体化することができる ・実習課題に関わる事前知識・技術を習得することができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
8	実習課題の具体化4	・実習課題を具体化することができる ・実習課題に関わる事前知識・技術を習得することができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
9	実習課題の具体化5	・実習課題を具体化することができる ・実習課題に関わる事前知識・技術を習得することができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
10	実習課題の具体化6	・実習課題を具体化することができる ・実習課題に関わる事前知識・技術を習得することができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
11	実習打ち合わせ	・実習施設・機関との実習前の打ち合わせを行うことができる ・実習における課題とプログラムを具体化することができる ・実習に関わる事前知識・技術を習得することができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
12	実習体験の振り返り1	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成	巻、福岡、宮本、片山、

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		果を説明することができる	近藤
13	実習体験の振り返り 2	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成果を説明することができる ・自ら設定した実習課題に取り組みについて、課題の成果を客観的に整理・分析することができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
14	新たな課題の整理・検討 1	・実習体験を通じて生じた新たな課題を明確化することができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
15	新たな課題の整理・検討 2	・実習体験を通じて生じた新たな課題への今後の取り組みに向けた検討ができる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
16	実習体験のまとめ 1	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成果や新たな課題を整理し、記録に整理できる ・実習報告書作成指導	巻、福岡、宮本、片山、近藤
17	実習体験のまとめ 2	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成果や新たな課題を整理し、記録に整理できる ・実習報告書作成指導	巻、福岡、宮本、片山、近藤
18	実習体験のまとめ 3	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成果や新たな課題を整理し、記録に整理できる ・実習報告書作成指導	巻、福岡、宮本、片山、近藤
19	実習体験のまとめ 4	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成果や新たな課題を整理し、記録に整理できる ・実習報告書作成指導	巻、福岡、宮本、片山、近藤
20	実習体験のまとめ 5	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成果や新たな課題のプレゼンテーション資料が作成できる (実習報告会準備等)	巻、福岡、宮本、片山、近藤
21	実習体験のまとめ 6	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成果や新たな課題のプレゼンテーション資料が作成できる (実習報告会準備等)	巻、福岡、宮本、片山、近藤
22	実習報告会	実習の成果を報告（プレゼンテーション）し、学生、実習指導者、教員の三者で共有できる	巻、福岡、宮本、片山、近藤
23	全体のまとめ	・ソーシャルワーク応用実習のまとめ	巻、福岡、宮本、片山、近藤

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

学習への参加態度70%、実習報告書など提出物30%とし、総合的に判断する。

【教科書】

必要に応じてプリントなどを配布する。

【学修の準備】

授業範囲を予習復習（4時間）し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

実習領域に関連する文献や資料を読むこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP5 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【実務経験】

巻 康弘（社会福祉士） 福間 麻紀（社会福祉士） 宮本 雅央（社会福祉士・精神保健福祉士） 片山 寛信（社会福祉士）
近藤 尚也（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。